

第1学年3組 道徳科学習指導案

1. 主題名 いじめの芽を摘む <相互理解、寛容 B-(9)>

2. 教材名 『いじり』? 『いじめ』? (出典: 教育出版「中学道徳1 『とびだそう未来へ』」)

3. ねらい

いじりといじめについて考え、話し合うことを通して、相手の立場に立って考え、理解し、尊重しようとする態度を育てる。

4. 道徳的価値について

生徒たちはいじめをしてはならないということは学んできているが、どこまでが悪ふざけとして許されて、どこからがいじめになるか認識があいまいで、自分の行いをいじめだと自覚しないことが、いじめがなくなる理由の一つと考えられる。昨今のメディアでは、視聴者を笑わせるための、人をからかうような行為を「いじり」と表現しているが、本来「弄る」には「いじめる、なぶる」という意味がある。「いじり」は生徒たちのあいだでもお笑いの一種として捉えられているが、無意識のうちにいじめにつながったり、あるいは隠れ^{みの}裏になってしまったりする場合がある。行っている側は楽しい「いじり」だと思っていることでも、受けた相手はどう感じているか。「いじり」と「いじめ」について考え話し合うことで、相手の立場に立って考え、理解し、それぞれの個性を尊重しようとする態度を育てることをねらいとしている。

5. 生徒について

この時期の生徒は友達どうしでからかい合うことがよくあるが、対等な力関係ばかりとはいえない。人の失敗や気にすることを笑いにすることはいじめの発端であり、決して許されるものではない。謙虚になって他に学び、自己を高めることが大切であると考ええる。

6. 教材について

生徒が考える「いじり」の定義はあいまいであること、同じ行為でも受け取り手によって感じ方は違うことに気づき、お互いの立場や考えを理解し尊重することの大切さについて、深く考えることができる教材である。一人一人がそのような態度を身につけることが、いじめの芽を摘むことにつながりたい。

7. 指導について

教材の前半は「いじり」、後半は「いじめ」について考える構成である。前半では許容範囲は人それぞれ違うことに気づかせた後、後半の冗談のつもりで言ったことが相手を傷つけ、いじめと受け止められてしまう内容の漫画から、「いじり」と「いじめ」はどう違い、どう同じなのか小集団でプレインストーミングとKJ法で考えさせる。

8. 指導過程

区	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 15分	<p>1. 「いじり」について考える。</p> <p>「いじり」と「いじめ」の違いは何だと思えますか。</p> <p>2. 本時の目標を知る。</p> <p>「いじり」と「いじめ」の違いについて、考えよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 相手が笑っていればよい。 • 相手が嫌がっていないものならばよい • 面白ければいい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 教科書P39に自分の意見を書かせ、何人かの生徒に発表させる。 • 「いじり」と「いじめ」の認識の曖昧さに気づかせる。
展開 30分	<p>3. 範読を聞く。</p> <p>4. 「いじり」と「いじめ」について話し合う。</p> <p>(1) 小グループで話し合う。</p> <p>「私」がしたことは「いじり」と「いじめ」のどちらか、また、理由は？</p> <p>ア 付箋を用いて模造紙に意見をまとめる。</p> <p>イ グループごとに意見を発表する。</p> <p>(2) 発表された意見をもとに話し合う。</p> <p><補助発問></p> <p>★傷ついたらいじめになると書いてあるがどう思うか。</p> <p>★傷ついたらって言えないのはいけないことなのか。</p> <p>「私」と「アスカ」はどうしていれば、よかったのだろう。</p>	<p><「いじり」の理由></p> <ul style="list-style-type: none"> • アスカを攻撃したかったわけでない。 • アスカも笑っていたからよい • それぐらいで傷つくのは弱い <p><「いじめ」の理由></p> <ul style="list-style-type: none"> • 相手が傷ついているから • 嫌なのに嫌とは言わせない雰囲気がいじめだと思う。 <p>• なんでも傷ついたらいじめになったら、もう何も言えない。</p> <p>• 言えない人もいる。</p> <p>• 言えない雰囲気があったら言えない。</p> <p>• 「私」は「アスカ」のことを考えて発言すべき</p> <p>• 謝るべきだった。</p> <p>• 嫌なら嫌だというべき</p> <p>• 「アスカ」は「私」の考えを受け止められるとよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 付箋を用いて、まずは個人で多くの意見を書かせる。 • 4人グループになって、ファシリテーターを中心に意見をまとめさせる。 • バタフライチャートで発表された意見をまとめていく。 • 2人のどちらかが悪いとならないように補助発問で双方の立場をおさえる。 • お互いが相手の立場にたった行動を考えさせる。
終末 5分	<p>5. 気持ちを伝えあうときに大切なことを考え、一枚ポートフォリオを記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 相手の立場に立って、気持ちを考えて発言する。 • 相手の考えや気持ちを受け止める。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の考えと違う他者の考えも尊重しようとする気持ちをもたせる。

9. 本時の評価

相手の立場に立って考え、尊重しようとする意欲を高めることができたか。

第1学年3組 道徳科学習指導案（板書計画）

1. 主題名 いじめの芽を摘む <相互理解、寛容B-（9）>

2. 教材名 『いじり』？『いじめ』？（出典：教育出版「中学道徳1『とびだそう未来へ』」）

